平成２９年度

小金井平和の日記念行事

「平和作文集」

小金井市

は　じ　め　に

現在、本市では、先の大戦において犠牲となられた方々を悼み、恒久平和を祈念して小金井市戦争犠牲者追悼式を３年ごとに行っています。昭和２８年には、戦争による犠牲者の霊を慰めるとともに戦争の惨禍を忘れず、再びかかる不幸を繰り返すことのないよう、私たちの平和を祈念する記念碑として小金井町戦争犠牲者慰霊碑を建設し、同年１２月２０日には、その除幕式及び慰霊祭を行いました。また、平和に関する宣言として、昭和３５年１０月３日には、地方自治体が平和の尊さを訴え、世界連邦運動に賛同を表する「世界連邦平和都市宣言」を行い、昭和５７年４月１日には、世界の唯一の核被爆国として、また、平和憲法の精神からも、核兵器の全面廃絶と軍備縮小の推進に積極的な役割を果たすべきとして「小金井市非核平和都市宣言」を小金井市議会において行っています。そして、昭和５４年３月２０日に制定された「小金井市市民憲章」の中でも、平和を願う市民の強い思いを示しているところです。

本市ではこれまで、平和都市として未来の子どもたちに平和な世界を継承していくために、戦争の悲惨さと、平和の大切さを発信し続けていくことが必要であると考え、「非核平和映画会」、「平和行事参加の旅」、「原爆パネル展」、「平和講演会」など、様々な平和事業を継続して展開してきました。また、「日本非核宣言自治体協議会」及び「平和市長会議」にそれぞれ加入するなど、平和を希求する自治体としての姿勢も示しているところです。

そして、平成２６年１２月１８日に戦後７０年の節目を迎えるに当たり戦争の記憶を風化させないため、改めて平和の大切さや命の尊さを語り合い、考える機会をつくるため、「小金井平和の日条例」を制定しました。

この文集は、同条例に基づいて実施した平和の日記念行事における作文コンクールの応募作の中から５編を選定し、文集にしたものです。ご覧いただき、未来の子どもたちに平和を引き継いでいくため、共に「平和」について考える機会にしていただければ幸いです。

平成３０年３月

企画財政部広報秘書課

目　次

【入賞作文】

中学生の部　大賞
「平和について考える」
須藤　帆香（小金井市立東中学校　２年生）・・・・・・・・・１

中学生の部　優秀賞
「幸せな生活とは何か？」
山口　珠央（東京電機大学中学校　２年生）・・・・・・・・・４

小学生の部　大賞
「家族の記憶」
原口　有葵（小金井市立東小学校　５年生）・・・・・・・・・６

小学生の部　優秀賞
「世界の平和を守るために」
大久保　藍（小金井市立小金井第一小学校　３年生）・・・・８

【佳　作】

「私が思う戦争と平和」
多田　紗良（小金井市立東小学校　５年生）・・・・・・・・・１０

大　賞

「平和について考える」

須藤　帆香（東中学校　２年生）

「平和」という言葉の意味を調べてみると「戦いや争いがなくおだやかな状態」とでてきます。私は今、とても平和な毎日を送っています。家族や友達とたくさん笑い、私の生活はおだやかな状態にあるからです。ですが、世界に目を向けるとどうでしょうか。紛争に苦しむ人、満足にご飯を食べられない人、とても平和とはいえない状況にあると私は思います。

世の中で最も悲惨な出来事と言って良い戦争やテロは、世界の平和を奪います。多くの命が犠牲になり、多くの人を悲しませる。平和な未来を築くために、私達人間にできることとして挙げられるのは、過去から学ぶということです。戦争やテロは、自然災害と違い、一人一人の意識によって止めることができます。戦争などを経験したことのない世代が増えている中で、過去の失敗を学び、それを未来に繋げていくことはとても大事なことだと思います。例として、経験者から話を伺う、原爆ドームやグラウンド・ゼロなど、戦争やテロが起きた跡地へ行き、自分の目で見る、そして、本や教科書などを通して学ぶことが挙げられます。将来世界を引っぱっていく私達若い世代には、「平和」という言葉の意味を、自分だけを基準に考えるのではなく、常に世界に目を向けて考えることが必要とされていると思います。今、世の中で起きている過酷な状況に向き合うだけでなく、過去の過ちを二度と繰り返さないように一人一人が意識をする。これらのことが「平和」な未来を創り上げていく第一歩になるのではないでしょうか。

私は、小学校六年生の時に、アメリカ同時多発テロ事件の跡地である、ニューヨークにあるグラウンド・ゼロを訪れました。この事件が起きた２００１年、私はまだ生まれていなかったので、この出来事の恐ろしさというものを知りませんでした。ですが、いざグラウンド・ゼロを訪れてみると、言葉を失ってしまいました。ビルに囲まれている大きな噴水、そしてその周りに刻まれている約三千人の犠牲者の名前。実際に、航空機がワー

ルドトレードセンターに激突している場面を見たことはなかったのですが、跡地を訪れただけでこの事件の悲惨さは伝わってきました。調べたところによると、この事件は、ワールドトレードセンターの北棟と南棟、そしてアメリカ合衆国国防総省本部庁舎ペンタゴンの三か所が、イスラム主義を主張するスンナ派ムスリムを主体としたテロ組織であるアルカイダにより攻撃され、三千二十五人もの命が奪われ、六千二百九十一人以上が負傷したそうです。

私は、アメリカ同時多発テロ事件についてもっと知りたいと思ったことから、この事件で崩壊したワールドトレードセンターを舞台にし、実話を元に製作したノンフィクション映画「ワールド・トレード・センター」を観ました。人々を救出するために向かう警察官二人が途中生き埋めになりますが、奇跡的に助かるという映画でした。また、航空機がビルに激突するシーンや、人々が煙などによる苦痛のあまり、ビルから飛び降りるシーンなどもあり、衝撃的な映画でもありました。この映画のストーリーが現実に起きたと思うと、ショックでたまりませんでした。

警察官二人が救出されるまでの間、二人がお互いの家族について語り合う場面があります。当たり前のように過ごしている毎日がどれだけ素晴らしいものか、家族という存在がどれだけ大きいものか、このシーンを通じて考えさせられるものはたくさんありました。

グラウンド・ゼロを訪れて、そして、この映画を観て、改めて「平和」について考えるようになりました。これほど多くの命を無差別に奪ってしまったアメリカ同時多発テロ事件を、決して忘れてはいけない。また、二度と同じ過ちを犯してはいけない。そのようなことを、私たちに訴えているように感じました。

今、世の中で問題になっていることはたくさんあります。北朝鮮核問題、難民問題。その他にもたくさん。今すぐにこのような問題を解決していくことは不可能です。しかし、少しでも今の状態が改善するように、一歩でも平和な世界に近づくために、私たちにできることはたくさんあります。同じ人間として、今の世界の状況を理解し、助け合う。そして「平和」について意識をする。私も、微力ではありますが、募金やその他の支援活動に積極的に参加していきたいと思います。また、戦争やテロなどの悲惨な出来事がこれからの世界に起きないように、理解をより深めていき

たいと思います。いつか「戦いや争いがなくおだやかな状態」がこの世界に実現することを願っています。

優秀賞

「幸せな生活とは何か？」

山口　珠央（東京電機大学中学校　２年生）

私は戦争なんてしたくない。他の国からミサイル攻撃を受けたくない。まして他の国に攻撃をするなんていうのはもってのほかと思っています。戦争なんて絶対に無い方が良いと思います。毎朝、普段通りに起きて朝ご飯を食べ、電車に乗って学校に行き、放課後にはクラブ活動をして、家に帰ると当たり前の様に夜ご飯があって、好きなテレビを見て、宿題と勉強をして、暖かい布団で寝る。普段はこの当たり前で普通の日常、いつも通りの毎日、もしかしたら何かもっと面白いこと無いかなと退屈に思えてしまうこともこれまであったかもしれません。改めて今回戦争や平和について考えてみると、どれほど自分が幸せな環境で生活しているのか、思い知らされた様な気がします。世界には私たちの様に、当たり前にご飯を食べたり、学校へ行ったり、暖かい布団で寝たりすることが出来ない国があるそうです。その理由として、戦争や紛争、発展途上、経済の悪化など様々な事情が挙げられます。世界中多くの地域で起きている民族紛争、宗教の違いによる紛争、お互いに自分の土地であると争っています。経済の発展が先進国に比べて低い水準にあるため、国民の生活や教育などに行き届かない。様々な理由により経済が悪化し、私が思う当たり前の生活が出来ない人々が多くいることに気付かされました。

個人差はあると思いますが、多くの人が平和な生活を望んでいると思います。多分紛争中の地域の人々もそうだと思います。しかし本当のことは当事者でなければわかりません。幸せで平和な生活をするには、条件や前提があるのではないかということです。

私はこれまでなぜ戦争なんてするのだろう。なぜ人と人が殺し合いをするのだろう思うだけで、理由まで考えてみたことはありませんでした。

例えば、昔から先祖代々生活してきた場所があると思います。その場所に知らない人々が来ると、ここは私たちのものだと争いが起こり、先祖代々生活してきた場所を追い出されたとします。果たして、追い出された

人々は違う場所で生活できるのでしょうか？例え違う場所で今まで通りの生活が出来たとしても、その人々からしたら違う気持ちになると思います。なぜなら先祖代々生活してきた土地で生活することが条件として幸せな生活ができると考えることができるからです。これは一つの例であり、戦争や紛争は至る所で様々な理由で起こり、このままでは絶えることが無いのかもしれません。

どうしたら戦争の無い平和な世の中をつくることが出来るのでしょうか？確かな事は、もめ事や争いごとを解決する手段として、人を傷つけたりする戦いでは絶対に解決できないということです。今までに勉強してきた日本や世界の歴史をみても分かるかと思います。歴史をみると戦いの繰り返しであり、現在でも戦争や紛争が起きています。だとすれば戦うことはお互いに傷つけ合い、戦いが終わったとしても結果として憎しみを残してしまいます。その憎しみが残る限り争いが絶えることが無い理由になるからです。私は、もめ事や争いごとを解決する手段はお互いが納得できるような話し合いだと思います。そうしなければ争いごとは解決できません。

これからの私たちの未来は、話し合いを軸として、どうしたらお互いが納得していけるのか考えていく必要があると思います。またどうしたら戦争をしなくてよい世界をつくれるか。長い時間をかけて、また世代を超えて真剣に取り組んでいかなければならないと思います。

現在日本では、憲法改正について議論されています。特に第９条「戦争放棄、軍備及び交戦権の否認」についてです。条文には、「日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する」とあります。しかし、現在日本は、ミサイル攻撃の危機にさらされている状況にあり、しかも対話の実現も難しい状況にあります。対話の実現に向けて努力していくのか、憲法改正により自国を守る方法をとるのか早急に判断しなければなりません。しかし、私は早急に判断していくことと長い時間をかけて対話に取り組むことが必要だと思います。

もう他人事ではありません。当事者として、私たち子供から大人まで世代を超えて平和について考え、そして当たり前の生活という幸せができる様に、努力しなければならないと考えさせられました。

大　賞

「家族の記憶」

原口　有葵（東小学校　５年生）

私は、自分の家族が大好きです。

一緒に住んでいる、両親や兄はもちろんの事、九州にいる祖父母やいとこも大好きです。みんなが元気でいるのが当たり前でいつもいっしょにお出かけしたり笑いあったりしています。

いままでの、家族の思い出は、私の記憶の中や、写真などに一杯残っています。

でも、私の祖父には、お父さんとの思い出が全く無くお母さんときょうだいと大変苦労した事を、真っ先に思い出すそうです。

なぜなら、私のひいおじいちゃんは、第二次世界大戦で召集され遠い異国の地フィリピンで戦死してしまったからです。

ひいおじいちゃんは、とても心優しい人で、小学校の先生だったそうです。日本を離れる日、ひいおばあちゃんに「必ず帰って来ます。それまで三人の子供達の事よろしく頼みますよ。」と言ったそうです。

でも、ひいおじいちゃんは、戦地で敵の鉄砲の流れ玉に当たって帰らぬ人となってしまったそうです。

ひいおじいちゃんの戦死の知らせを聞いたひいおばあちゃんは、三人の幼な子を連れて人気の無い丘まで駆け上がり張りさけんばかりの声で泣いたそうです。

でも、それを最後にひいおばあちゃんは涙を見せなかったそうです。

この話は、私の母がひいおばあちゃんから聞いた話です。母はこの話をするといつも涙ぐんでいます。

私も、会ったことのないひいおじいちゃんが大好きな家族ともう二度と会えないであろうお別れをして遠いフィリピンまで決して居心地の良くない船に乗せられ戦地に向かう事を想像すると、ひいおじいちゃんの事がかわいそうでかわいそうでたまらなくなります。

もし、今がその時と同じような状況で、お父さんやお兄ちゃんが召集さ

れると思うだけで、いやでいやでたまりません。

今、当たり前と思っているこのしゅん間が「平和」なんだなと思います。

しかし、外国では、「平和」な状況ではない国が沢山あります。

日本でも自然災害で「平和」で無くなる事もあります。

私が思う平和とは、家族がいつも笑顔で楽しい記憶をつないでいく事だと思います。

全人類がこの楽しい記憶をつないでいける世界になればいいと思います。

優秀賞

「世界の平和を守るために」

大久保　藍（第一小学校　３年生）

せんそうって何だろう。せんそうにかかわる本を読むまでは、せんそうがどんなにくるしくて、悲しいかが分からなかった。

本を読んでも、あまりつらいっていうのが分からない。けれど平和っていうのは、ごはんがしっかり食べられることなのかな。わたしたちのあたりまえはごはんがしっかり食べられて、学校にしっかりかよえること。じゃあ、せんそうにまきこまれた子は、わたしたちのあたりまえが出来ていないのだろうか。

学校でならったちいちゃんのかげおくりを思い出した。ちいちゃんの家族の中のお父さんは、いくさに行く事になった。この時のちいちゃんのお母さんは、とても悲しんだだろう。その後、ちいちゃんの住む町に、ばくだんが落とされた。にげていると中、ちいちゃんはお母さんとはぐれてしまった。この時わたしは心をうたれた。お母さんとはぐれたというのに、あきらめないで、お母さんはいるとしんじているのだから。この時のちいちゃんを考えると、ちいちゃんは強いと思った。命がせんそうでうばわれてしまったかもしれないのに。わたしは、ちいちゃんの力強さに、ちいちゃんは幸せになって、家族全員とわらってすごしてほしいと思った。そして、ちいちゃんの体は空にすいこまれ、家族に出会えた。どんなにうれしかったことだろう。ちいちゃんの心は、家族と会えて、温かくなったのではないかと思い、初めて、せんそうのつらさや悲しみが分かった。

これから、食べ物がなくて、こまっている子がいたら、食べ物を分けてあげて、その子を一人ぼっちにしたくない。これからもその子が幸せになって、いっぱいわらってほしいと思った。

でも、せんそうを始めてしまうと、わたしたちではかんたんに止めることは出来ない。だから、食べ物をおいしく食べられることや、学校に楽しくかよえること一つずつを大切にして、今のくらしに平和があること、食べ物を作ってくれる人など、今のくらしを作ってくれてる人に感しゃした

い。多くの人々の命をうばわれないようにしたい。世界の全員をえがおにしたい。これからも、世界中の人の平和がだれにもうばわれませんように。

佳　作

「私が思う戦争と平和」

多田　紗良（東小学校　５年生）

私は戦争を経験したことがないので、実際の苦しみは知りません。しかし、本やテレビ、新聞などで見たり聞いたりすることで、戦争のひどさは知ることができます。

私が年末に見た新聞記事には、少年が一人で亡くなった赤ちゃんをせおって火そう場にならんでいるすがたを、アメリカ軍のカメラマンがさつえいした写真がのっていました。その写真は、かくばくだんが長崎に落とされたあとにさつえいされたものでした。その少年は私よりおさなく見えました。家族とも別れ一人ぼっちであろうに、むねを張ってりんとしたすがたで立っているのに心を打たれました。もし私がその立場だったら、家族がいなくなり、辛くて火そう場でいっしょに燃え死にたいと思うかもしれません。しかし、死ぬのもこわいのでどうすれば良いのか分からずとまどってしまいそうです。その新聞記事によると、ローマ法王が教会関係者にこの写真入りのカードを配布し、「かくなき世界」をうったえたそうです。一方、現在でも北朝せんがかくミサイルを開発しています。過去の戦争で多くの人が命を落とし、小さい子供までもぎせいになっているというのに、まだかくミサイルを開発し続けるのはおかしいと思いました。今の日本での生活は、平和だとつくづくと思います。私は好きなときにたくさんの人達と仲良く遊んだり、楽しく話したり、美味しいものもたくさん食べられるからです。もしほんとうにかくミサイルがまた発っしゃされたら戦争になり、多くの人々が大切な家族や家を失い、残こくなことがたくさん起こってしまいます。

このような記事やニュースで過去の悲さんなことを知って、改めて命のとうとさに気づきました。かくばくだんを落とされたのは世界でゆいいつ日本だけなので、日本はもっと力強く「かくなき世界」をおし進め、十年後、百年後の世界のためにも実行されたら良いなと思いました。

平和作文集

発　行　平成３０年３月１０日
　　小金井市

編　集　小金井市企画財政部広報秘書課広聴係
　　小金井市本町六丁目６番３号
　　☎０４２－３８７－９８１８

再生紙を使用しています。